

[研究ノート]

ユニファイドスポーツ®に関する論文等の検討

Review of Unified Sports® Papers

田引 俊和

要旨

知的障害のある人と、ない人が共に活動するスペシャルオリンピックスの「ユニファイドスポーツ®」に関する論文等を抽出し、その研究目的、結果・結論をもとにグループ化を行う。対象の国内3本、海外12本の論文等のうち多くが「スポーツ場面の効果・影響」、「インクルーシブやノーマライゼーションとの関係」に着目したものであった。一方、ユニファイドスポーツ®の導入や展開を意識した運営マネジメントに言及したものは国内の論文等2本のみであった。今後の普及・拡大に向けた研究の蓄積が求められる。

キーワード：スペシャルオリンピックス (Special Olympics)／障害者スポーツ (disability sports)／知的障害 (intellectual disabilities)

1. はじめに

(1) 背景

障害のある人のスポーツ環境は近年、新しい段階に入ってきており、単にその場所や機会の拡充ということだけではなく、障害のある人となない人が共に活動するスポーツが意識されるようになってきている。法律や関係する諸計画の表記からもそれがうかがえる。

具体的にみると、スポーツ庁による第3期スポーツ基本計画(2022-2026年)では「総合的かつ計画的に取り組む12の施策」の一つとして「スポーツを通じた共生社会の実現」が示され、「障害のある人となない人が一緒にスポーツを行えるよう、パラ教育の事例の収集や一般のスポーツ施策と障害者スポーツ施策の連携を推進する」といったことが明記されている。これは第1期計画(2012-2016年)の「健常者と障害者が同じ場所でスポーツを行う方法やスポーツ障害・事故防止策等について、大学等での研究成果や人材を活用する取組を推進」と比べると、障害のある人となない人によるスポーツの協働がより意識された内容となっ

ている(文部科学省；スポーツ庁)。

また、障害のある人の福祉を中心とした第5次障害者基本計画(2023年からの5年間)では、「共生社会の実現に向け、障害の有無にかかわらず誰もが障害者スポーツに親しめる機会をつくる」ことが明記されている(内閣府 2023)。これもおよそ20年前の2002年の障害者基本計画(内閣府 2002、2003)ではみられなかった^{注1)}「共生」や「障害の有無にかかわらず」といったことが盛り込まれている。

さらに、実践、活動の実態についても2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック(東京 2020)の前後に共生社会の実現に向けた障害者スポーツの理解や体験に関する取り組みが各地で行われ、障害のあるなしに関係なく多くの人たちが参加している(内閣府 2023)。

(2) 問題意識

このような中、本稿では知的障害のある人のスポーツを支援する民間の知的障害者スポーツ組織「スペシャルオリンピックス」が実施している「ユニファイドスポーツ®」に着目し、関連する論文等の検討を行う。

ユニファイドスポーツ®は知的障害のある人と、

TABIKI, Toshikazu

北陸学院大学 社会学部 社会学科
障害者福祉論・障害者スポーツ

ない人がチームメイトとして共に参加する形のスポーツの協働プログラムで、同組織が積極的に導入、展開を進めているものである（スペシャルオリンピックス編2020）。ただし、2023年末のユニファイドスポーツ®の参加者は全国で約600人（同組織ホームページ）とそれほど多いものではなく、かつ、拡大基調にあるようにはうかがえない。今後の展開や参加者の拡大に向けては諸課題を明らかにするための調査研究が求められるが、国内での取り組みはまだ緒に就いたばかりで検証等は十分に行われていない。参加人数は示されているものの（スペシャルオリンピックス編2020；同組織ホームページ）、関係者の間で論点や課題が整理、共有されていることは確認できない。本稿の問題意識はここにあり、今後の詳細な調査研究に向けた事前準備としてユニファイドスポーツ®を先行して導入している地域の関連研究の動向、内容を確認する。

知的障害のある人のスポーツに関しては、社会的な理解や実践は遅れていたが今では広く認識され、様々な形で活動が行われるようになってきている。本稿で対象とするスペシャルオリンピックスでは全国で約8千人の知的障害のある会員が地域での日常的なスポーツに参加している（スペシャルオリンピックス日本編 2020）。さらに、一部ではあるもののパラリンピックでも知的障害の種目が設定されている^{注2)}（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター）。知的障害のある人にとってのスポーツ環境は以前に比べれば整備されてきており、次は社会全体の潮流のもと、障害のない人とのスポーツの協働を考えていくことが求められる。

一つの知的障害者スポーツ組織の取り組みではあるが、ここでの検討結果をふまえ、このあとの調査研究、および根拠に基づいた障害のある人となない人によるスポーツの協働の普及・推進の一助となることをめざす。

2. 用語の確認

(1) スペシャルオリンピックス

本研究で検討対象とする「スペシャルオリン

ピックス（略称SO／エスオー）」はアメリカで起こった活動で、1994年に国内で展開を始めている。各都道府県単位に活動拠点（筆者注：同組織では「地区組織」と称している）を置き、多くの競技・種目を支援している。単発的、イベント的なスポーツではなく、知的障害のある会員（筆者注：同組織では「アスリート」と称している、以下、本稿ではこれを用いる）の地域での日常的・継続的なスポーツを重視している。

その運営は、学校教育や障害児者福祉サービスなどとは直接的に連動しておらず、民間組織として自主的なものとなっている。係る経費のほとんどは活動を支援する企業・団体等からの協賛金、寄付金で賄われ、加えて大会等の入場料や関係する何かの商品化、メディア等との権利、経営を意識したものでもなく非営利なものとなっている（仲野 2012；スペシャルオリンピックス編 2020；田引 2020）。

(2) 障害と知的障害者スポーツ

近年では「障害」の表記について、「障がい」、「しょうがい」、「障碍」などとする議論もあるが（文化庁2020；内閣府2010）、本稿ではスポーツ基本法などの関連法等に基づき「障害」とする。併せて、「知的障害者」の表記は精神薄弱福祉法から知的障害者福祉法への法改正（1999年）以前は「精神薄弱者」という呼称であったが（中央法規2010）、本稿では基本的に「知的障害」を用いる。ただし、文献リストを含めいずれも引用等の場合は原文通り用いる。

また、障害者のための特別なスポーツがあるわけではなく（大久保 2012）、「知的障害者スポーツ」という専門競技が存在するわけでもない。その上で、本稿では障害のある人が行う、または参加するスポーツが一般的に「障害者スポーツ」と称されていることにならい、知的障害のある人が行う、参加するスポーツを「知的障害者スポーツ」とする。

(3) ユニファイドスポーツ®

前述の通り、本稿で検討対象とするユニファイドスポーツ®は、知的障害のある「アスリート」と、知的障害のない人（筆者注：同組織では「パート

表 1：ユニファイドスポーツ®論文等の概要（グループ 1：身体・スポーツ）

著者（発行年）	研究目的	方法	結果、結論
Karen S. Castagno. (2001)	ユニファイドスポーツ®に参加することによる、知的障害のあるアスリートとない人に生じる変化を検討	男性 58 名 (MR あり 24 名、MR なし 34 名) を対象に、自尊感情、友情活動、形容詞チェックリスト、バスケットボールスポーツ技能評価尺度を採用	各グループとも全てのテストにおいてプログラム参加前のスコアより参加後のスコアが有意に高い
D. Özer et al. (2012)	ユニファイドスポーツ®のサッカープログラムが、知的障害のある青少年と、ない青少年の心理社会的属性に及ぼす影響を調査	友情活動尺度 (FAS)、形容詞チェックリスト、児童行動チェックリスト	ユニファイドスポーツ®は知的障害のある青少年の問題行動を減少させ、社会的能力と FAS スコアを増加させるのに有効 さらに、障害のない青少年の、障害のある参加者に対する態度を改善するのに有効
R McConkey et al. (2013)	ユニファイドスポーツ®が知的障害のある人に関する社会的包摂の促進を高めるプロセスの検討	個人インタビューとグループ・インタビューを実施	社会的包摂に関する 4 つのテーマ、プロセスを特定、(1)アスリートとパートナーの個人的な成長 (スポーツスキルや会場までのアクセス)、(2)包括的で平等な絆の構築、(3)アスリートに対する肯定的な認識の促進、(4)地域コミュニティ内での同盟関係の構築 ユニファイドスポーツ®は、社会的包摂を促進するが、より広いコミュニティにおける強化にはさらなる考察が必要
Pan CC, Davis R. (2019)	ユニファイドスポーツ®の経験による身体的自己概念と身体イメージの違い	ユニファイドスポーツ®の経験者と未経験者の比較	スポーツ参加は身体的自己概念に肯定的な影響を与える
Arbour-Nicitopoulos KP et al. (2022)	通常プログラムとユニファイドスポーツ®に参加するアスリートの質の高いスポーツ体験を促進する経験的要素の検討	2019 年 SO ユースゲームズに参加した 451 名を対象に、自律性、所属感、挑戦、関与、習得、意味を評価する量的調査	通常のスポーツプログラムと、ユニファイドスポーツ®のアスリートの間有意差はなく、すべての要素において平均点が高い
Fothergill MA et al. (2023)	スペシャルオリンピックスとアカデミーのサッカー選手とのインクルーシブ・プログラムについて、選手とファシリテーターの視点から考察	ファシリテーター 6 名、プレミアリーグのアカデミー選手 14 名、SO 選手 10 名を対象に質的フォーカスグループを実施	参加することによるポジティブな成果が強調され、参加した全員に心理社会的なメリットとサッカーに特化したメリットがあることが示される 一方、ファシリテーターは、今後のプログラムにはさらなる配慮が必要であることを指摘
L.R.Ketcheson et al.(2024)	アスリートとパートナー間のフィールド上での身体活動レベルの違いを評価	加速度計により身体活動を測定	ユニファイドスポーツ®の競技中のフィールド上での身体活動レベルは、知的障害のある選手とない選手は同程度
Rang Xiao et al. (2024)	ユニファイドスポーツ®が知的障害のある人の実行機能、前頭前皮質活性化に及ぼす影響の検討	機能的近赤外分光法 (fNIRS) を用いて比較	ユニファイドスポーツ® (サッカー) が知的障害のある青年の実行機能を高め、この集団の QOL を向上させる可能性がある

表2：ユニファイドスポーツ®論文等の概要（グループ2：インクルーシブ・ノーマライゼーション）

著者（発行年）	研究目的	方法	結果、結論
志村健一(2016)	知的障害のある人とのフレンドシップの拡大	大学での取り組み事例報告	ユニファイドスポーツ®を通してチームメイトとしての感覚が育まれる、大学卒業後も関係継続などの成果
Karen S. Castagno. (2001)	ユニファイドスポーツ®に参加することによる、知的障害のあるアスリートとない人に生じる変化を検討	男性 58 名（MR あり 24 名、MR なし 34 名）を対象に、自尊感情、友情活動、形容詞チェックリスト、バスケットボールスポーツ技能評価尺度を採用	各グループとも全てのテストにおいてプログラム参加前のスコアより参加後のスコアが有意に高い
Michael Townsend, John Hassall. (2007)	知的障害のある生徒が学校内の総合スポーツプログラムに参加する可能性について、一般生徒の態度を調査	170 人の生徒を対象に量的調査、一部インタビュー	肯定的な態度が示され、ユニファイドスポーツ®を通じてインクルージョンとノーマライゼーションを強化することは肯定的に受け入れられる可能性が高い
D. Özer et al. (2012)	ユニファイドスポーツ®のサッカープログラムが、知的障害のある青少年と、ない青少年の心理社会的属性に及ぼす影響を調査	友情活動尺度（FAS）、形容詞チェックリスト、児童行動チェックリスト	ユニファイドスポーツ®は知的障害のある青少年の問題行動を減少させ、社会的能力と FAS スコアを増加させるのに有効 さらに、障害のない青少年の、障害のある参加者に対する態度を改善するのに有効
R McConkey et al. (2013)	ユニファイドスポーツ®が知的障害のある人に関する社会的包摂の促進を高めるプロセスの検討	個人インタビューとグループ・インタビューを実施	社会的包摂に関する 4 つのテーマ、プロセスを特定、(1)アスリートとパートナーの個人的な成長（スポーツスキルや会場までのアクセス）、(2)包括的で平等な絆の構築、(3)アスリートに対する肯定的な認識の促進、(4)地域コミュニティ内での同盟関係の構築 ユニファイドスポーツ®は、社会的包摂を促進するが、より広いコミュニティにおける強化にはさらなる考察が必要
Matsunaga, Kayce. (2019)	障害のない生徒が障害のある生徒をどのように見ているか、また、障害のある生徒が障害のある生徒をどのように見ているかの検討	8 人へのインタビュー	ユニファイドスポーツ®を通して障害のある生徒もない生徒も前向きな影響を評価、 一方、より確かな結果を得るためにサンプル数を増やすか、障害のある生徒とない生徒の生の認識を直接調査することを検討すべき
Fothergill MA et al. (2023)	スペシャルオリンピックスとアカデミーのサッカー選手とのインクルーシブ・プログラムについて、選手とファシリテーターの視点から考察	ファシリテーター6 名、プレミアリーグのアカデミー選手 14 名、SO 選手 10 名を対象に質的フォーカスグループを実施	参加することによるポジティブな成果が強調され、参加した全員に心理社会的なメリットとサッカーに特化したメリットがあることが示される 一方、ファシリテーターは、今後のプログラムにはさらなる配慮が必要であることを指摘
O'Rourke RH et al. (2023)	学校でユニファイドスポーツ®取り入れる価値の検討	21 人の青少年(そのうち 12 人は ID)と 14 人のコーチに対してインタビュー	ID を持つ生徒も持たない生徒もコーチもユニファイドスポーツ®の包括的な性質を高く評価 今後はインクルーシブ実践のコーチのためのトレーニングや一貫したトレーニングのための最適な方法を研究する必要がある

表3：ユニファイドスポーツ®論文等の概要（グループ3：運営マネジメント）

著者（発行年）	研究目的	方法	結果、結論
井上明浩(2010)	世界大会の状況と今後の国内の展望の検討	スペシャルオリンピックス世界大会の観戦に基づいた検討	ユニファイドスポーツ®をうまく取り入れることが次代の地域スポーツにおける中心となりうる
渡邊浩美（2017）	国内でのユニファイドスポーツ®の効果と課題の検討	国内での事例検討	ユニファイドスポーツ®がもたらすソーシャルインクルージョンへの期待は高いが、一方で適切なマネジメントモデルを考案することが急務

表4：ユニファイドスポーツ®論文等の概要（グループ4：先行研究レビュー）

著者（発行年）	研究目的	方法	結果、結論
Amy L. Accardo et al.(2023)	ユニファイドスポーツ®に関する報告内容を検討	先行研究レビュー	レビューした研究全てでユニファイドスポーツ®の肯定的な経験が社会的包摂や自己概念の向上につながる

ナー」と称する、以下、本稿ではこれを用いる）が、共にチームメイトとしてスポーツに参加、取り組むスタイルのものである。他のスポーツプログラムと同様に、コーチの指導のもとアスリートとパートナーは日頃から一緒に練習することで、競技中は「チームメイト」、日常では「仲間」「友だち」としてお互いに相手の個性を理解し、信頼を深め、助けあう関係を構築していくという共生社会を意識した実践的なプログラムとなっている（スペシャルオリンピックス日本編 2020）。

さらにユニファイドスポーツ®には、①高い競技能力を持つ知的障害のある人のパフォーマンスを最大限に引き出す「ユニファイドスポーツ®・コンペティティブ」、②技術や戦略の向上を目指す「ユニファイドスポーツ®・プレーヤーデベロップメント」、③社会参加やスポーツを楽しむレクリエーションの機会としての「ユニファイドスポーツ®・レクリエーション」という3つのモデルがあり、それぞれ異なる特徴を持っている。なお、今回対象とした論文等ではこれらのモデルを分けずに検討しているため本稿でも同様に扱う。

3. 先行する海外のユニファイドスポーツ®の知見

（1）検討方法

本稿では、ユニファイドスポーツ®を先行して導入している地域の関連研究の動向、内容を確認する。対象論文等の検索について、国内の論文は

「CiNii Research（国立情報学研究所）」を用いた。海外の論文については、米国の「Human Kinetics」、 「National Library of Medicine」を用いた。それぞれ検索語に「ユニファイドスポーツ」、および「Unified Sports」を設定し、2024年7月、8月に検索を行った。海外の論文を検索するのに米国のデータベースを用いたのは、本稿で対象とするスペシャルオリンピックスが米国発祥のものであり、かつ、国際本部が置かれ活動を推進する中心となっているためである。種別、および査読の有無は問わず、また検索結果から学会発表の抄録等と、論文等の内容がスペシャルオリンピックス、Special Olympicsを主たる検討対象としてないものは除外した。

さらに、対象とした論文等を研究目的、および結果・結論をもとにグループ化した。

（2）結果

検索の結果、国内の論文等3本、海外の12本の合計15本が検討対象となった。また、対象の論文等をグループ化したところ、4つに分けられた。

グループ1は、参加者の身体面やスポーツ場面の効果・影響を対象としたもので、今回の中で最も多い8本の論文等で構成された（表1）。次のグループ2は、インクルーシブやノーマライゼーションとの関係について言及したもので8本の論文等で構成されている（表2）。なお、身体・ス

スポーツ面と重複して言及しているものもあった。これらはグループ1、グループ2のどちらにも配置した。3つ目のグループはユニファイドスポーツ[®]の運営・マネジメントに関するものでこれは国内の論文等2本で構成された(表3)。海外の資料ではこの内容で検討されたものはなかった。最後のグループ4は、ユニファイドスポーツ[®]に関する先行研究のレビュー論文等が1本だけであった(表4)。

4. 考察

(1) 知的障害者スポーツの一つのスタイルとしてのユニファイドスポーツ[®]

障害のある人となない人が共に活動するスポーツについて、知的障害者スポーツ組織「スペシャルオリンピックス」による「ユニファイドスポーツ[®]」に着目し、関係する論文等の内容を検討した。その結果、参加者の身体・スポーツ面の効果・影響やアスリートとパートナーの比較、およびインクルーシブやノーマライゼーションにつながるかどうかを検討した論文等が多く見られた(表1、表2)。ユニファイドスポーツ[®]を先行して導入・展開している海外の知見がほとんどであるが、知的障害のある人となない人によるスポーツの協働に対してはこのような部分への関心が高いことがうかがえる。概して、前向きな評価が報告されており、社会全体の潮流とも相まって知的障害者スポーツの一つのスタイルとして今後拡大していくことが予想される。また、海外の論文等には学校での取り組みを検討したものもみられた。教育の場におけるユニファイドスポーツ[®]の意義を期待してのことだと推察するが、この点、分離教育について国連からも勧告^{注3)}を受けるぐらいの日本社会は(朝日新聞2022.9.14)もう少し関心を持ってほしいと考える。

ただし、このような形態のスポーツを知的障害のある当事者が自ら望み、また、そのスポーツ要求が充足されているかどうかまではわからない。

田引(2020)が指摘するように、彼らは障害特性により自身のスポーツ要求を自覚し、また、表出することに制約がある。将来的にみればインクルーシブやノーマライゼーションへの貢献は彼らの住む社会がより良いものにつながるようになる

だろうが、「今日の前にあるスポーツ、今の活動」に対する要求、原動力としてそれが意識されているかは明確に示されていない。加えて、知的障害のないパートナーにとっても同じようなことが考えられる。活動を、「自分のスポーツとして楽しんでいる」のか、あるいは「知的障害のある人のことや、知的障害そのものを理解するための活動」と捉えているのか明確ではない。

スペシャルオリンピックスを対象にしたものではないが、澤江(2020)は学校でのインクルーシブ体育^{注4)}の課題として次のように報告している。

「障害特性に合わせることが必要であることを学んだが、それを意識すると指導にならなくなった」

「授業全体の目標や内容を障害のある児童生徒に合わせすぎてしまい、その授業の多数を占める健常といわれる児童生徒にとって目標や課題が合わず、彼らにとってつまらない状況がその場を覆いつくす」

今後、国内での普及・拡大においては当事者のスポーツ要求も考慮して、障害のある人となない人によるスポーツの協働、および研究を進めていくことが望まれる。

(2) 導入、運営マネジメントに関する調査研究の必要性

ユニファイドスポーツ[®]の導入や拡大、運営マネジメントについて検討したものは予想よりも少なく、国内の2本のみであった(表3)。ユニファイドスポーツ[®]の本格的な展開が始まったのが2012年の同組織国際本部のルール改訂以降(スペシャルオリンピックス日本編2020)で、実践がまだ十分でないということが要因の一つだと考えるが、今回対象の全体では数少ない国内の論文等のうち2本がこの点に着目していることになる。前節で触れたような分離教育といった日本社会の事情が背景にあるためなのか、あるいは逆に、同組織やユニファイドスポーツ[®]の発祥の地である北米では障害のある人と、ない人によるスポーツの協働、共生ということに障壁があまりないのか、このあと詳細に検証していく必要がある。

前節と同様に、スペシャルオリンピックスのユニファイドスポーツ[®]を対象としたものではないが、細田ら（2014）はインクルーシブスポーツ^{注5)}について次のように指摘している。

「どのようなニーズがどこにあるのかに関する地域ごとの調査が十分ではなく、また一般からの関心がどの程度あるか、どのような課題があるかに関する資料も限られている。よって、現状評価やニーズに関する実態調査が必要」

「インクルーシブスポーツが公的施設だけでなく民間スポーツクラブで行われる可能性についての調査、インクルーシブスポーツの実技指導にかかわる人材と共に企画立案（マネジメント）のできる人材の養成に関しても調査検討する必要がある」

また、障害のある当事者を対象としたスポーツ庁の調査報告書（2024）では、障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの経験がある人は2割弱となっている他、運動・スポーツの実施の障壁として「仲間がいない」、「一緒に運動・スポーツをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である」があげられている。さらに、運動・スポーツを実施することにあたって必要とする支援・環境・経験については、「一緒に運動をしてくれる人」、「障害のない人と楽しくスポーツをする経験や機会」があげられている。

双方のスポーツ要求を充足する自然な形での協働がどのようなものなのか、何が問題・課題なのかを明確にし、国内の事情をもとにしたユニファイドスポーツ[®]の導入、運営マネジメントが求められる。

（3）ユニファイドスポーツ[®]の普及・拡大に向けて

最後に今後の課題について触れておく。今回のユニファイドスポーツ[®]の論文等に関する検討は限られたデータベースで検索したのみで、対象は限定的である。加えて、キーワードで抽出できなかった論文等の中にはユニファイドスポーツ[®]を対象としたものがある可能性は否定できない。さらに、今回は論文等の内容を大まかにグループ化

したのみである。対象や検討方法、内容を精査する必要がある。

スペシャルオリンピックスのユニファイドスポーツ[®]の取り組みや、スポーツ基本計画で示されている「スポーツを通じた共生社会の実現」は、国内ではまだ始まったばかりである。今後は、個々の実践現場の事情に則した具体的な検証を重ね、調査対象や方法、項目（内容）を開発していくこと、すなわち研究の蓄積が求められる。そのことがスポーツの協働の普及、拡大につながると考える。

〈注〉

- 1）2002年の障害者基本計画では、「障害者スポーツをより促進させることを目的に、障害者の利用しやすい施設・設備の整備の促進及び指導員等の確保、全国障害者スポーツ大会の充実、民間団体等が行う各種のスポーツ関連行事を積極的な支援、日本障害者スポーツ協会を中心とした障害者スポーツの振興、特に普及が遅れている精神障害者のスポーツの振興に取り組む」といった目標が掲げられていた（内閣府2002、2003）。
- 2）具体的に東京大会の場合、全22競技539種目のうち、知的障害のある選手のために設定されていたのは、陸上競技、水泳、卓球の3競技だけであった。さらにその内訳は、陸上競技167種目のうち8種目、水泳136種目のうち10種目、卓球は31種目のうち2種目で、いずれも障害程度による区分はなく「知的障害」という単一のクラスとなっていた。
- 3）障害者権利条約に関連して国連の審査委員会が日本の取り組みについて審査、報告（勧告）したもので、その中の一つで分離された特別な教育をやめるように求めている。
- 4）澤江（2020）は、インクルージョンを体育場面で適用した用語として「インクルーシブ体育」を用いている。類似のものとして「用具やルールを工夫して、障害の有無や年齢、性別等に関係なくスポーツを楽しむことができるスポーツ（児玉他2023）」、「様々な個性や能力に関わらず、あらゆる人にとって楽しめるスポーツ（秋政他2010）」としての「ユニバーサルスポーツ」がある。
- 5）細田ら（2014）は障がいの有無を越え、さらに年齢の壁を越えて、共に参加し、共に体を動かしゲーム

を楽しめるスポーツを「インクルーシブスポーツ」として用いている。この中では障がいのある人に合わせてスポーツのルールや器具を適応させるアダプティブスポーツとはやや異なるものとしている。

〈文献〉

- 秋政邦江・小野擴男 (2010)「医療系大学における「健康体育」授業への車いすダンスの導入ーユニバーサルスポーツの有効性ー」『川崎医会誌一般教』36号.
- Amy L. Accardo; Sarah L. Ferguson; Hind M. Alharbi; Mary K. Kalliny; Casey L. Woodfield; Lisa J. Vernon-Dotson (2023) Unified Sports, Social Inclusion, and Athlete-Reported Experiences: A Systematic Mixed Studies Review, *Inclusion*, 11(1), 23–39.
- Arbour-Nicitopoulos KP, Bruno N, Orr K, O'Rourke R, Wright V, Renwick R, Bobbie K, Noronha J(2022) Quality of Participation Experiences in Special Olympics Sports Programs. *Adapted physical activity quarterly: APAQ*. 39(1), 17-36.
- 朝日新聞2022. 9. 14「強制入院や分離教育廃止勧告」.
- 文化庁 (2020)「「しょうがい」の表記のあり方について」国語分科会 国語課題小委員会資料.
- 中央法規出版編 (2010)『五訂社会福祉用語辞典』中央法規出版.
- D. Özer, F. Baran, A. Aktop, S. Nalbant, E. Ağlamış, Y. Hutzler (2012) Effects of a Special Olympics Unified Sports soccer program on psycho-social attributes of youth with and without intellectual disability, *Research in Developmental Disabilities*. 33(1), p.229-239.
- Fothergill MA, Baik D, Slater HM, Graham PL. (2023) "We're All the Same and We Love Football." Experiences of Players and Facilitators Regarding a Collaborative, Inclusive Football Program Between Academy and Special Olympics Footballers. *Adapted Physical Activity Quarterly*. 40(4), 687-706.
- 細田満和子・渋谷 聡・吉野ゆりえ (2014)「インクルーシブスポーツの課題と可能性ー共生社会におけるスポーツについてー」『星槎大学紀要 共生科学研究』No. 10, 136-144.
- 井上明浩 (2010)「2009スペシャルオリンピックス冬季世界大会の状況と今後の国内の展望」『金沢星稜大学人間科学研究』3 (2), 57-62.
- Karen S. Castagno (2001) *Special Olympics Unified Sports: Changes in Male Athletes During a Basketball Season*, *Adapted physical activity quarterly*, 18(2), 193-206.
- 兒玉 友・藤田紀昭・金山千広 (2023)「ユニバーサルスポーツの普及促進に関する研究ー名古屋市内におけるユニバーサルスポーツの導入を事例としてー」『日本福祉大学スポーツ科学論集』第6巻.
- L.R.Ketcheson, E.A.Pitchford, J.Hauck, F.Loetzner (2024) On-field physical activity of Special Olympics athletes and Unified Partners during the 2022 Special Olympics World Unified Cup, *Journal of Intellectual Disability Research*, 68(2), 164-172.
- Matsunaga, Kayce (2019) *INCLUSION THROUGH SPORT: A CASE STUDY OF COACHES' EXPERIENCES OF SPECIAL OLYMPICS UNIFIED SPORTS*, Doctoral Dissertations, University of La Verne.
- Michael Townsend, John Hassall (2007) Mainstream Students' Attitudes to Possible Inclusion in Unified Sports with Students who have an Intellectual Disability, *Journal of Applied Research in Intellectual Disabilities (JARID)*, Volume20, Issue3, p.265-273.
- 文部科学省 (2011)「スポーツ基本法」https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/index.htm、2024. 10. 20参照.
- 文部科学省「第1期スポーツ基本計画(平成24年度～平成28年度)」https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/index.htm、2024. 10. 20参照.
- 内閣府 (2023) 障害者白書令和5年版、「付録7 障害者基本計画(第5次)」https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/furoku_07.html、2024. 10. 20参照.
- 内閣府 (2010)「「障害」の表記に関する検討結果について」「障害」の表記に関する作業チーム資料.
- 内閣府編 (2003)『障害者白書平成15年版』国立印刷局：東京.
- 内閣府編 (2002)『障害者白書平成14年版』東京コロニー.
- 仲野隆士 (2012)「知的障がい者のためのスペシャルオリンピックス」川西正志・野川春夫編著『生涯スポーツ実践論改訂3版』市村出版, 137-141.
- 日本財団パラリンピックサポートセンターホームページ、<https://www.parasapo.tokyo/>、2021. 9. 3参照.
- 大久保春美 (2012)「障害者スポーツの意義と理念」日本障害者スポーツ協会編『改訂版 障害者スポーツ指導教本 初級・中級』ぎょうせい, 23-26.

- O'Rourke RH, Orr K, Renwick R, Wright FV, Noronha J, Bobbie K, Arbour-Nicitopoulos KP. (2023) The Value of Incorporating Inclusive Sports in Schools: An Exploration of Unified Sport Experiences. *Adapted Physical Activity Quarterly*. 40(4), 629-648.
- Pan CC, Davis R (2019) Exploring physical self-concept perceptions in athletes with intellectual disabilities: the participation of Unified Sports experiences, *International Journal of Developmental Disabilities*. 65(4), 293-301.
- Rang Xiao, Ping Xu, Xue - Lian Liang, Zhi Zou, Jiu-Gen Zhong, Ming - Qiang Xiang, Xiao-Hui Hou (2024) Effects of the special olympics unified sports soccer training program on executive function in adolescents with intellectual disabilities, *Journal of Exercise Science & Fitness*, Volume 22, Issue 2, p.103-110.
- R McConkey, S. Dowling, D. Hassan, S. Menke (2013) Promoting social inclusion through Unified Sports for youth with intellectual disabilities: a five-nation study, *Journal of Intellectual Disability Research*, 57(10), 923-35.
- 澤江幸則 (2020) 「インクルーシブ体育の可能性と限界」 『体育科教育学研究』 36 (2) : 33-38.
- 志村健一 (2016) 「知的障害のある人たちとのフレンドシップ : ユニファイドスポーツを通じた取り組み」 『月刊福祉』 全国社会福祉協議会、99 (13), 25-31.
- スペシャルオリンピックス日本編 (2020) 「スペシャルオリンピックス日本25周年記念誌」.
- スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画令和4年度(2022年度)～令和8年度(2026年度)」 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413_00001.htm、2024. 10. 20参照.
- スポーツ庁 (2024) 『障害者スポーツ推進プロジェクト (障害児・者のスポーツライフに関する調査研究)』 報告書、スポーツ庁委託調査リベルタス・コンサルティング、2024. 3.
- 田引俊和 (2020) 『日本の知的障害者スポーツとスペシャルオリンピックス』 かもがわ出版.
- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ホームページ、<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/paralympics/>、2021. 9. 3参照.
- 渡邊浩美 (2017) 「知的障がい者支援の民間ネットワーク研究 -人々を巻き込むアクティビティ及びプログラムの考察-」 『福祉社会開発研究』 東洋大学福祉社会開発研究センター、9, 67-76.

